

愛媛県 武道館 だより

第5号

平成17年12月
愛媛県武道館発行
〒790-0948
松山市市坪西町551
(☎089-965-3111)

「世界柔道選手権大会 イン・カイロ」

愛媛県柔道協会 副会長

岡田 博

1 はじめに

第24回世界柔道選手権大会は、初めてアフリカ大陸、エジプト国の首都カイロで9月8日から4日間、開催されました。

今大会に愛媛県出身者2名、男子100kg超級に前回優勝の棟田康幸（松山市・警視庁）選手が3度目、女子57kg級に宮本樹理（宇和島東高・帝京大）が初出場となり、愛媛から吉田柔道会青野会長、福井顧問が全柔連の観戦ツアーで、柔道協会から棟田理事長と小生が醍醐九段主宰の柔道家ツアーに入れていただき、9月7日成田発15時30分の直行便で13時間余のフライトで、時差6時間のカイロに、現地時間23時過ぎに着きました。しかし、出発前日の愛媛は、大型台風の来襲による雨風で、交通機関が乱れ、這々の体で何とか東京へたどり着く有様でした。

会場のカイロスタジアムは、4万人収容の巨大スタジアムでカイロ国際空港の近くにあり、カイロ市内から車で約30分、車から降りると、砂漠国特有の熱射を浴びます。ゲート入口では金属探知機をくぐり、身体検査、手荷物検査を受けて敷地内に入り、炎樹の下を汗を拭きながら歩き、スタジアムへ向かうと、ここでも警備員（警察官）に、要所所で厳しいチェックをされました。

2 観戦雑感

大会初日、古典的で華やかな民族舞踊、ゼンホン氏（元大統領護衛官）の指導による少年柔道の演武後、開会式が行われ、重量級から試合が始まりました。

棟田選手は、1回戦バンデギースト（オランダ）に大内刈「有効」から横四方固、2回戦地元エジプトのゼインを大内刈。3回戦グダリエフ（ウズベキスタン）を崩壊袈固。準決勝ブレインソン（キューバ）を裏投、と見事な1本勝ちで決勝に進出し、ロシアの怪力ミハイリンと覇を争うこととなりました。試合は、両者緊迫した中に展開され中盤、長身のミハイリンが左手で肩越しに棟田の帯を取り、棟田が前に崩れ膝をつく瞬間、右手を前から股に入れての「掬い投」に敗れ、惜しくも銀メダル、惜しい一戦でした。それにしてもミハイリンの怪力には、観戦者は唖然としていました。棟田選手のリベンジを期待しています。

宮本選手は、大会3日目に1回戦ルペチイ（キューバ・元世界チャンピオン）と対戦、宮本左、ルペチイ右の厳しい組み手争いから袖釣込腰・両手刈と離れての攻撃を宮本は落ち着いて捌くも、組むと直ぐ攻めてくる相手に技が出ず「指導」、その後反撃を狙って前に出る宮本に執拗な両手刈りを仕掛け「効果」



となり、宮本選手は最後まで自分の柔道が出来ず、悔いの残る試合でした。

敗者復活でもゴラスゼウスカ（ポーランド）と左右のけんか四つで、組み手争いから足を取り、朽木倒・両手刈と攻められ、内股・大内と攻めるも厳しい組み手に本来の持ち味が出ず敗れてしまいました。今後、この経験をもとに更に努力を重ね、頂点を目指して欲しいと願っています。

広い会場には、連日日本人学校の児童、日本人会の方々約200人が駆けつけ、風船をたたき、「ガンバレ〇〇」と日本流の応援で心強く嬉しく思いました。しかし、空席が多かったのは、4日間の入場料100\$が現地の人にとっては高いとのこと、テレビ放映は有りましたが、もっと多くのエジプトの人に会場で観て貰いたかったと少し残念に思いました。場内は、トイレ・売店等も少なく不便でしたが、冷房とセキュリティは行き届いていました。

今大会日本チームのメダル数は、8階級中、男子金2個、銀2個、銅2個、女子は金1個、銀3個、銅1個で少しもの足りなさがありますが、これはアテネ5輪の日本柔道が分析され、対応策を研究されてのことであり、今後、日本選手も大会の都度、新しい技・新しい戦い方に、さらなる研鑽が必要になると考えられます。

3 観光の国探訪

ピラミッドを連想するエジプトは、国土が日本の約3倍の100万キロ㎡、その内“不毛の地”砂漠が実に87%を占め、ナイル川沿岸の沖積平野や河口のデルタの緑地帯に人口が集中して、世界有数の人口密度で人口5千万人、カイロは1千2百万人とも言われている農業と観光の国であり、国民の90%強がイスラム教徒で、モスクも多くの信仰心は厚く、人情も豊かな国であります。

私たちも大会の合間をぬって、旧知のアズハル大学教授タレク・典子夫人（徳島県出身）のご厚意でピラミッド、スフィンクス、フセインモスク、カイロ考古学博物館等や市内の観光も案内していただき大変楽しい息抜きができました。

タレクさんは、今回日本チームの練習会場となったズフォルクラブ会員で、タレク教授や夫人、息子（柔道初段）さん一家あげて、通訳や大会業務の調整等長期間お世話をいただいた方です。日本チーム全員がクラブに柔道着を寄贈したことを大変喜ばれ、帰国後お礼の電話と手紙をいただきました。

旅の楽しみである食事は、昼・夜となくエジプト料理を求め、フィッシュ・レストラン、シシカバブ・レストランと異国ならではの味と香りを巡り、水タバコで優雅な気分まで味わうことができました。



旅の締めくくりには、地中海の名所アレキサンドリアへ1泊2日で行きました。

バスには私服警察官が同乗し、通過点等を無線連絡しての観光でしたが、心身をリフレッシュをして帰途12時間の機上の人となりました。

4 終わりに

私にとってエジプトは、1970年1月外務省文化使節として、コンゴ・ガーナ・ナイジェリア・モロッコの5ヶ国へ約3ヶ月、柔道を通じた国際親善と交流のために派遣された最初の国であります。4年後、オイルショック後の中近東政策で、1974年4月再びエジプトへ家族4人で1年間派遣され、ナショナルチーム等の指導に努めた特別な国であり、以降何かと交流を続けており、定年退職後真っ先に旅した国でもあります。



4年前には、世界大会のカイロ開催が決まりPRの為に来日した、ナショナルチーム監督ヘルミー・フセイン、審判員モハメド・ラシュワン両氏が、わざわざ松山に来て、建築途中の愛媛県武道館を視察し、「こんな立派な武道館で試合や練習が出来る人は幸せですね」と武道館の概要に感嘆しておりました。

「ナイルの水を飲んだ者は、再びナイルの川岸に立つ」というエジプトの格言があります。かつて飛行機で23時間の旅も、今では、約半分の13時間余に短縮されました。

今回は、エジプトの知人や柔道仲間の多くが大会役員・係員で忙しく、ゆっくり語り合う時間が持たなかったため、折を見て再びナイルの川岸に立ちたいと願っているこの頃です。

第60回国体 「弓道少年男子 近的競技に優勝して」

少年男子監督（松山工業高校非常勤講師）

青野 常孝

1 いざ戦わん 本番

（第60回国国民体育大会 秋季大会 弓道競技）

全国各地を代表した兵の選手達が、「第60回国国民体育大会 秋季大会 弓道競技」愛称を“晴れの国おかやま国体”、スロークラウンを“あなたがキラリ”の下に参集した。

競技日程 平成17年10月23日(日)～26日(水)

開催地 岡山県玉野市玉野市民総合運動公園 弓道場

少年男子の陣容

監督 青野常孝（愛媛県立松山工業高等学校）

選手 1の立ち 越智雅彦（愛媛県立今治工業高等学校 3年）

2の立ち 三木隆介（愛媛県立松山工業高等学校 3年）

3の立ち 横川 岬（愛媛県立松山工業高等学校 3年）

少年女子の陣容

監督 立井万喜（宇和島東高等学校）

選手 1の立ち 村田夏希（愛媛県立今治北高等学校 2年）

2の立ち 武智芳恵（愛媛県立松山工業高等学校 3年）

3の立ち 山内絵利香（済美高等学校 3年）

10月23日(日) 近的予選

開会式 8：00 玉野市立日比中学校校体育館

矢渡し 9：30～9：50

射手 教士八段 佐藤薫

介添え 教士七段 大山万壽

介添え 教士七段 小坂量子

少年男子	予選	1回目	2回目	小計	総計
1の立ち	越智雅彦	〇〇〇〇	〇〇〇〇	8中	24中 (最高の中)
2の立ち	三木隆介	〇〇〇〇	〇〇〇〇	8中	
3の立ち	横川 岬	〇〇〇〇	〇〇〇〇	8中	

完璧な成績・完勝にて文句なし！

心の片隅に心配事1つ、決勝トーナメント戦が明後日で時間が空き過ぎること。

結果の掲示板を見せずに明日の遠的練習に移動し練習開始する。

私は、明後日の近的決勝トーナメント抽選のため抽選開始5分前に抽選会場に入場すると、各予選通過チーム監督は自席に着席して空き席は一番前・中よりの席と最後の席であり、どの席に座るか少し躊躇したが、我がチームは最高の中だから1番前の席に着席する。

やがて、岡山の監督さんが「先生、予選の立ち順に従い抽選

する事になっています。」との、忠告に従い最後尾の席に移動した。

抽選開始順次戦う位置・対戦チームが決まり、我がチームは最後の抽選棒を引く、しかし残り1本を引く前にはトーナメント戦の空きは8枠のみ地元の岡山チームが7枠、つまり地元との対戦にて脳裏を掠めたのは、大応援団の声援との戦いである、愛媛チームの実力は1枚上と確信している、選手にどのような言葉を掛けるか……。

今日は最良の成果を挙げ終了。

10月24日(月) 遠的予選・決勝トーナメント戦

遠的競技は、60メートル先の色的での、中心から外枠にかけて、黄色(10点)・赤色(9点)・青色(7点)・黒色(5点)・白色(3点)・外枠は0点とされ高得点を競う。

昨年の埼玉国体の遠的において3点不足で予選落ちの状況が頭を過ぎる、今年は選手の大型と実力を信じるのみと気をふるい立たせる。

	1回目	2回目	小計	総合計・順位
越智雅彦	5993	10357	51	131点 予選通過順位 4位
三木隆介	5505	7009	31	
横川 岬	9950	79010	49	

予選順位4位にて通過、先ずは安堵・安堵。選手には遠的練習に移動を指示。

私は、抽選会場へ移動。抽選結果は8チーム槽の1番で初戦は神奈川との対戦、これは十分余裕で勝利するだろう、4番の栃木チームが難敵、このチームに勝ち抜けば優勝も可能と期待と不安が交錯する。

決勝トーナメント 準準決勝戦 (予想通りの勝利)

勝 愛媛 76点-48点 岡山 前半より気楽に見守れた。

決勝トーナメント 準決勝 (予想は五分五分)

1本目 愛媛 21点-18点 栃木 (愛媛3点リード)
 2本目 愛媛 19点-18点 栃木 (愛媛4点リード)
 3本目 愛媛 24点-25点 栃木 (愛媛3点リード)
 4本目 愛媛 1の立ち 9点-9点 栃木 (3点リード)
 2の立ち 3点-7点 栃木
 (1点負け、次の選手に賭ける・祈る思い)
 3の立ち 3点-5点 栃木 (3点負け、万事休す。)
 トータル 79点-82点 (無念)

3位、4位決定戦へ (選手一人2本の合計6本にて競う)

愛媛 52点-33点 岩手 (始めから大きくリード)

3位が確定

選手には近的練習場へ移動するよう指示。

本日は3位の入賞成果を挙げ終了する。

10月25日(火) 近的決勝トーナメント戦 (決戦気合の日)

準準決勝

対戦は岡山で大応援団に負けないように、相手の声援を自分達の応援と思え。

“始め”の掛け声のみが会場に響く、静寂の中各チーム共に射位へ、習いのごとく矢を弦に番える緊張の一瞬！戦い開始。

愛媛 対 岡山

1の立ち 1本目

岡山がやや早く矢を射る…はずれ(×)、静寂とため息、愛媛が射る…的中(○)、パラパラではあるが力強い拍手

2の立ち 1本目

岡山さらに早く矢を射る…的中(○)、会場が割れんばかりの歓声と拍手の嵐の中、愛媛が的を狙いの最中、愛媛・三木選手は狙いの時間(会)が6秒~7秒が平常の時間である、(今少し頑張れ・まだ十分的付けは無い・もう少し頑張れ)4秒頃に離れる…はずれ(×)

3の立ち 1本目

岡山はさらに早く矢を射る…的中(○)、またも歓声と声援の嵐、この雰囲気の中にも堂々の的中(○)。

2本目は戦場の雰囲気にもなれて、愛媛チームは落ち着いて戦う、岡山は先行し早いテンポで試合を進めるが岡山は○×○、愛媛○○○で前半は愛媛 5的中-4的中 岡山で愛媛の勝利の方向に向かい勝ちを確信する。

3、4本目は共に譲らず 愛媛皆中(6射6的中) - (6射6的中) 岡山にて愛媛の勝利。

	愛媛 11的中	岡山 10的中	備考
越智雅彦	○○○○	×○○○	愛媛 11-10 岡山 戦いで勝利をもぎ取る。
三木隆介	×○○○	○×○○	
横川 岬	○○○○	○○○○	

準決勝

愛媛 12-7 山口

見事な勝利 (監督の予想通り)

いざ決勝戦へ第4控えに移動。決勝前の順位決定戦を実施のため待ち時間が長い。

決勝戦

決勝戦の相手の熊本は、常勝のチームで対戦相手に不足なし、私自身の今までにすべての大会(全国高校総合体育大会・選抜大会)で対戦したことは無いが、我がチームの今日の勝ち運に恵まれた状況では勢いがあるから勝利を得られると予想がしている。

さらに、国体監督を引き受けた時から熊本より一枚上を獲得する決意もしていた。

	愛媛 12的中	熊本 11的中	備考
1の立ち	越智雅彦 ○○○○	○○○×	優 勝 愛媛 12-11 熊本 感無量
2の立ち	三木隆介 ○○○○	○○○○	
3の立ち	横川 岬 ○○○○	○○○○	

試合終了するや否や審判席・来賓席より“驚異・賞賛・感嘆”の声が沸き、観客席からも拍手が鳴り止まなかった。

2 戦いを終えて

ここに第60回国民体育大会秋季大会弓道競技(愛称 晴れの国おかやま国体)の少年男子団体の優勝の報告ができる事に大きな喜びと嬉しさを我が胸に収めています。

少年男子選手の近的競技で打ち立てた予選~優勝までの記録は前人未到大記録を打ち立てた。

この勝利は関係の皆様のご支援と選手を育てた多くの先生方のためめぐり指導の賜物と感謝いたします。さらに、選手たちの相互の和とたゆまぬ研鑽・修練と根気強い練習の取り組みの素晴らしさと思います。

優勝した選手たちに万雷の拍手を送ります。



第60回国体 「なぎなた競技会 成年・少年 試合競技4位」

愛媛県なぎなた連盟 理事
西岡 朋美

10月23日(日)から25日(火)までの三日間にわたり、第60回国民体育大会なぎなた競技会が、岡山県勝央町立勝央中学校で開催されました。

初めて成年の部で国体に出場することになり、予選から国体までの約3ヶ月余り、社会人5年目にして国体に出場出来るという喜びと、技を自分のものにしようという気持ちで、時間を見つけて稽古に励みました。監督・選手の先輩方と稽古をし、たくさんのアドバイスを頂きながら、勝つ為には「限界を作らない」という事を体で教わりました。

試合当日、「まずは一勝」と一丸となって試合に臨みました。先鋒の先輩が気合いの入った動きで流れを作って下さり、中堅の私は、それを受けて良い緊張の中で、思い切った攻めをする事が出来ました。尊敬する先輩方と一試合一試合、共に声を掛け合い、精一杯戦い抜いた結果、四位に入賞する事が出来ました。

成年の部で初めて国体に出場して、一本の難しさを感じ、また試合に臨む精神力の重要さを痛感しました。またこれからの向けて、数々の課題を得た国体となりました。まだまだこれからではありますが、国体という大きな舞台で試合が出来たことを本当に嬉しく思いました。

成年・少年共に第4位に入賞出来たのも、いろいろな面で選手の事を一番に考えて下さった監督、激しい稽古を共に積んだ選手、そして熱心に御指導をして下さった先生方や共に稽古をして下さった方々のおかげです。また家族の協力や、現地に入ってから民泊でお世話になったご家族、町の皆さんの熱い声援にも大変励まされました。

この三日間を通して、私にとってのこの国体は、また来年この舞台に選手として立てる様に、更に稽古に励もうと決意を堅くするものとなりました。

第60回国体「空手道競技」

愛媛県空手道連盟 競技力部長
八塚 一人

去る、10月23日～25日の三日間にかけて、岡山JFK倉敷体育館において『第60回晴れの国おかやま国体』が開催されました。

地元岡山チームは、昨年の成年男子団体戦を制しており、2連覇を達成又、軽・中量級ともに優勝し天皇杯を手中にしました。中量級の永木伸児選手は愛媛県出身であり世界に通用する選手が育った事は嬉しい事と思います。

今回の愛媛県選手は、成年男子の形において月原源太選手が国体出場2回目にして5位入賞とよい成績を納めることができました。

予選・一回戦と自然体ながら迫力あるサーバイを打ち、二回戦サーエンチンで突破、三回戦にて国体・世界選手権優勝者の強豪選手に当たりスーパーリンペー(得意形)を落ち着いて若さあふれる形を披露し、2対1と善戦。本人も今後の空手道、又競技空手での目標を確実にとらえられたのではないのでしょうか。まだ大学2年でもあり、大舞台での今後の活躍が楽しみな選手である。

形選手では、少年女子・矢野彩：ベスト16(昨年3位)成年女子・井上和代：2回戦敗退(本年度全関西大学・形団体優勝)と頑張ってくれました。

空手道の組手では、選手の繰り出す技は火花を散らすように速く、相手選手の動きに合わせながら的確に技を決めて行かなければなりません。まさに、空手道ならではの瞬間の美学です。

この組手において、少年女子・武田茉莉亜選手も、来年度開催される兵庫県代表(二回戦)と戦い惜しくも延長戦にて負けました。中量級の篠原隼人選手も体調はよくベスト16(三回戦敗退)と善戦しました。武田選手は現在、高校(聖カタ)2年生で、昨年・本年度と実力が安定していますし、篠原選手も中堅どころで国体経験も重ね成長してきていますので二人の兵庫国体での上位入賞が期待できます。又、少年男子・藤岡勇馬：重量級・矢野慎太郎：成年女子・伊藤志紀選手も愛媛代表としてすばらしい戦いをみせてくれました。

今回の国体は岡山ということで、関係者の方々や家族の人達と多くの応援の人が来ており、選手も心強く戦えたと思います。今後も、各選手が武道を通じていろいろな経験(各種大会)をし、成長してくれる事を期待しております。また、多くの関係者の方々に応援して戴きありがとうございます。この紙面をおかりしまして感謝致します。

主道場で実施が予定されている大会等 (1月)

競技	大会名	開催予定日	主催者等
剣道	第36回近県少年剣道練成大会	1月3日	久枝剣道会
鏡開式	平成18年鏡開式	1月8日	愛媛県武道館
剣道	第15回全国高校選抜剣道大会県大会	1月9日	愛媛県剣道連盟
ソフトテニス	四国選抜高校ソフトテニス大会個人戦	1月21日～22日	愛媛県ソフトテニス協会
バレーボール	全国高校バレーボール選抜男女優勝大会県大会	1月29日	愛媛県バレーボール協会

(注) 大会日程等は、今後変更の可能性がります。

スポーツ安全保険

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などに最適な保険です。

スポーツ安全協会 愛媛県支部
愛媛県教育委員会保健スポーツ課内 TEL089-941-2111(内線5398)

対象となる事故
☆グループ活動中の事故
☆往復中の事故

ワイドな補償で
みんなの元気を応援します!



5名以上の
団体に
ご加入ください。